



(参考仮訳)

プレスリリース No. 14/454

即時解禁

2014年10月6日

国際通貨基金 (IMF)

米国・ワシントン DC

IMF 理事会によるサーベイランス・レビュー： 危機後の相互に結びついた世界における持続可能な成長を支援

2014年9月26日、国際通貨基金 (IMF) 理事会は、IMF のサーベイランス活動の包括的なレビューを終了した。

IMF は、経済・金融の分析の実施や政策助言の策定 (サーベイランスとして知られるプロセス) の手法を定期的に検証する。3年毎のサーベイランス・レビュー (TSR) の目標は、サーベイランスが各加盟国や世界経済の課題及びニーズに対応していることを確保することである。

IMF は、サーベイランスの枠組みの改革に向け重要な措置を講じた。2012年、IMF は国別サーベイランス及びマルチラテラル・サーベイランスの法的枠組みを近代化するために「統合されたサーベイランス決定 (ISD)」を採択、相互に結びついた世界経済をより反映することになった。また、多くのイニシアティブも、リスクや波及効果を一層重視するとともに、金融の安定性と対外安定性に関するサーベイランスのギャップに対処することを目的としている。こうした取り組みには、「金融部門のサーベイランス戦略」やマクロプルーデンス政策の枠組みの採択、「波及効果報告書」や「対外部門の安定性に関するパイロット報告書」の導入、資本フローの自由化や管理に関する IMF の組織的見解の確立、4条協議のスタッフレポートにおけるリスク評価マトリックスの活用などが含まれる。

このような進展の一方で、2014年の TSR は、多くの国が依然、危機による負の遺産的な問題 (多額の債務、高い失業率、低成長) に対応し、多くの雇用を創出する成長を確保するための政策余地がこれまで以上に限定的となっている可能性が高い時に行われた。相互関連性が高い世界において、加盟国は世界の相互の結びつきによる恩恵を享受しつつ、その負の波及効果から国を守るという二重の課題に直面している。こうした背景のなかで行われた 2014年の TSR には、二つの広義な目的がある。すなわち、最近の進展を基に、これらの優先分野に関するサーベイランスをさらに強化すること、そして加盟国で新たに発生している課題にサーベイランスを引き続き適合させることである。

2014年のTSRの結果と提言は、多岐にわたる分析や外部の視点が考慮されている。レビューの根拠となるベースは、様々なステークホルダー（当局関係者や政策当局高官、市場関係者、市民社会）への調査とインタビュー、そして最近のサーベイランスの分析の詳細な検証から導き出された。外部のコンサルタントにより、サーベイランスの特定の側面（構造政策、マルチラテラル・サーベイランスの役割と焦点、公平性、国別・マルチラテラルの両サーベイランスの統合、リスクと波及効果）が、より深く調査され、これは複数の詳細なスタッフの研究によって補完された。また、レビューは、独立した外部諮問グループのガイダンスや、モンテック・シン・アルワリア氏やポール・クルーグマン氏、マーティン・ウルフ氏からの独立した論評からも恩恵を受けた。

理事会の評価

理事会は、3年毎のサーベイランス・レビュー（TSR）を歓迎し、スタッフチームと全ての外部貢献者からのこの作業への貴重なインプットに感謝の意を表明した。前回の2011年のTSR以来、IMFのサーベイランスの強化、特に国別・マルチラテラルの両サーベイランスの統合において大きな前進があったと述べた。理事会は、レビューの主要な結論と大部分の提言を概ね支持した。また、新たに発生している課題に対応する一方、「統合されたサーベイランス決定（ISD）」の採択後、直近の改革の実施を強化することを重視していることを評価した。

この精神の下、理事会は、2011年に示された優先事項は引き続き関連性があると述べた。同時に、危機後の相互に結びついた世界において有効性と関連性を確保するために、サーベイランスを精緻化し適合させ、強化する必要があると強調した。これに伴い、理事会は2014年から2019年の運営上の五つの優先課題を承認した。

（1）リスクと波及効果、（2）マクロ金融のサーベイランス、（3）マクロ的に重要な構造面への政策助言、（4）まとまりのある専門家による政策助言、（5）クライアントを重視したサーベイランスへのアプローチ、である。理事会は、これらの優先分野で作業を進めるための具体的な措置と暫定的なリソースへの影響の概要を示した、専務理事の行動計画を期待していると述べた。

リスクと波及効果。理事会は、リスクと波及効果は、危機が鎮静化した後も、IMFの優先事項であるとした。また、特にシステム上重要な国々の対外的な波及効果とスピルバック（戻り）についてより系統的な分析を行うことで、ISDを確実に実行することを求めた。更に、受益国へのリスクと波及効果の影響について、4条協議で異なるリスク・シナリオを提示するなどして、一層の定量化を進めるよう求めた。これに関連し、大多数の理事は、対外部門評価について、分析と手法を引き続き精緻化する一方、利用可能データの有無に応じて対外バランス評価（EBA）の手法を広く使用することで強化すべきであるという点で合意した。一部の理事は、分析をより広範な国々へ拡大したりEBAの結果を他のサーベイランス活動へ組み込む前に、手法の短所に取り組むことがより適切であると考えた。サーベイランスの統合をさらに進めるにあたり、理事会は、各国固有の事柄を見失うことがないように、国別とマルチラテラルの両側面の適切なバランスを維持することの必要性を強調した。

理事会は、リスクの要因と伝播に関する分析を深化させる取り組みを支持した。また総じて、国のバランスシートの分析は、グロスのフローや純フローからのリスクを評価する際に有用であるとした。これは、リスクや波及効果の分析を深化させかつ各国の状況を勘案する際に助けになる。理事会は、一部の国では、法的・制度的枠組みのため機密情報の共有には制約があるかもしれないが、これらの分析を全面的に支持するには、更なるデータが必要だと認識した。したがって、このデータ・ギャップに取り組むため IMF と加盟国の更なる努力が必要である。

マクロ金融のサーベイランス。理事会は、マクロ金融の分析は4条協議において重要な位置を占めるべきであると合意した。金融部門と実体経済の関係の複雑さに鑑み、必要な技術支援の提供や分析ツールの改善、そして IMF スタッフのマクロ金融に関するスキルの強化が不可欠であろうと強調した。また、他の政策を補完する存在としてのマクロプルーデンス政策に関する IMF サーベイランスを強化する意図を歓迎した。理事会は、他の標準設定機関と協力しながら、知識ベースを作り、この分野における各国の経験から教訓を導き出すようスタッフに促した。

構造政策。理事会は、マクロ的に重要な構造的課題とそのマクロ経済への影響の全般を認識することが重要であると強調した。大多数の理事は、マクロ的な重要度や加盟国の「クリティカル・マス」に関する IMF の専門知識または関心に基づき、構造問題への IMF の関与について、可能であれば他の国際機関や現地の専門家の専門知識を活用しながら、より明確な原則を確立することを支持した。一部の理事は、IMF が限られた専門知識しか持たない中核からはずれた分野へと IMF の業務を拡大することに消極的であった。

まとまりのある、専門家による政策助言。理事会は、部門間の結びつきや政策の相互作用についての理解を向上させる取り組みを強化することは、IMF がまとまりのある助言のパッケージを策定するのに役立つであろうとの認識を共有した。この意味で理事会は、財政政策の助言は、明確で十分理にかなっているツールを基に、成長と持続可能性への影響についての説明責任を負うべきであると同意した。より大局的には、テーマに基づいたアプローチを取ることによって、重要な部門を見逃すリスクがあるという懸念が挙げられたものの、大多数の理事は、テーマに基づいた4条協議のスタッフレポートが、特に対象国に関するリスクと部門的な相互連関性を引き出す部分において、今後の手法になるとした。理事会は、IMF のミッションの継続性を確保し国際的な政策経験を共有するための、更なる取り組みを支持した。これには、技術支援をサーベイランスへより良く統合することが含まれる。また、IMF の局の間で、そして高い専門知識が他の機関に存在する分野においては他の国際機関と、連携を強化する余地があると述べた。

クライアントを重視したアプローチ。理事会は、IMF の政策助言の影響力は、分析の質だけでなく、率直さや明確さ、そして加盟国との関わり方によっても左右されると同意した。また、早期での関係構築や加盟国との非公式協議をより多く開催することは、政策助言を各国の状況により適合させ、その影響力を改善させる助けになるだろうと述べた。同時に IMF は、特にシステム上重要な国に対し、困難なメッ

セージを伝える事を敬遠するべきではない。理事会は、IMFの政策助言の変化をより体系的にモニターすることを含め、双方向の説明責任を高めることを支持した。そして数人の理事は、外部のレビュワーによる、カントリー・レポートのより一層の精査を歓迎するとした。

効果的なコミュニケーション。理事会は、明確なコミュニケーションは、IMFサーベイランスの総合戦略において重要な位置を占めると強調した。サーベイランスのメッセージを合理化するかなりの余地があると合意し、グローバル政策アジェンダの政策メッセージを集約することを概ね支持した。加えて、大多数の理事は、IMFのメッセージの有効性と一貫性を高める手段として、多国間に関する出版物を統合する余地があるとした。また数人の理事は、いくつかの出版物について、発行頻度を減らすよう提案した。他の複数の理事は、「波及効果報告書」や「対外部門の安定性に関するパイロット報告書」を含む現在のマルチラテラル・サーベイランスの一連の成果物について、国別・マルチラテラルの両サーベイランスの統合における明確に異なった役割に言及し、当面維持することを支持した。

国際協力。理事会は、IMFは危機後の世界で国際協力を促進する上で重要な役割を担っていると同意した。一部の理事は、世界の経済及び金融の安定性を確保するために、IMFのマネジメント（責務及び権限）の妥当性を詳細に検証するための専門家のグループを任命するという提言は有益だとしたが、大多数の理事は、この件で議論を展開する事について、現在は他の差し迫った優先事項へ引き続き注意を払うべきであり、適切な時期ではないとした。

公平性。理事会は、公平さが欠如しているという認識に対して取り組む重要性を強調した。多くの理事は、サーベイランスの成果にも留意しながら、サーベイランスへのインプット、特に資源そして国内リスク及びシステミック・リスクに関する判断に基づいた分析の詳細さという点において、公平性の評価をするという考えに前向きであった。しかし、一部の理事は、類似した特徴を持つ国々に対するIMFの助言が異なることが懸念の主な原因であることを指摘し、サーベイランスの成果へより多くの注意を払う必要があると述べた。理事会は、公平性に関する懸念を当局が報告するメカニズムを確立することは有益であり、IMFが問題をより良く特定し、理解し、そして透明性をもって対処することを可能にすると述べた。

資源。理事会は、提案の一部は、追加的資源を必要とするとの認識を示した。しかし、多くの理事はIMFマネジメントに対し、理事会が承認した提言を中立的なリソースの枠内で実施するよう促した。理事会は、多様な加盟国のニーズが十分に満たされるようにする一方で、支出削減と効率性の向上を確保する選択肢について慎重に考慮するよう求めた。これは、優先順位付け、スタッフ資源の再配置、いくつかのサーベイランスの分析の統合を含むかもしれない。また、予算の話し合いにおいて、IMF内の優先順位や資源の問題を検討することを期待していると述べた。

レビュー。理事会は本日、IMFサーベイランスの実施のレビューを終了した。数人の理事は、可能ならば合理化されたフォーマットで3年毎の周期を維持することを

望んだが、大多数の理事は、サーベイランスの改革と資源を多く必要とするレビューを効果的に実施するには時間が必要であることから、IMFサーベイランスの包括的なレビューを、進捗の中間報告書を伴う5年毎の周期へ変更することが適切であろうと同意した。理事会は、中間報告書は、実施を評価したり、新たに発生する問題を特定したり中間にて軌道修正をするための重要な機会となり、次回のサーベイランス・レビューを形作る助けになると考えた。